

民報あばしり

NO.1252

1月26日号

発行所

日本共産党
網走市委員会
網走市北八西三
四三二一四四五八
F 四三二一四四五七



日本共産党第28回大会に参加して（村椿代議員の手記）

大会期間中の宿は静岡県熱海市網代（あじろ）にある旅館です。大会会場は日本共産党の学習会館で、山の中腹にあります。網代駅から一駅先の伊豆多賀駅まで電車、その後は徒歩で山道を登ります。細い道なので警察官や党員が車や参加者の誘導をします。途中、住宅のそばにはツバキやサザンカの花が咲き、ミカン農家では採れたてのミカンやポンカンが袋入りで無人販売されていて、思わず買って食べましたが、とても美味しかったです。



若い人はもちろん70代の方も含め多くの代議員の人数がこの道を

上る姿を見て「今の生きずづらい社会を変えていきたい」という人々の気持ちに詰まっています。ように思いました。

昼のお弁当は食材がおいしく、すべて食べきりました。落としたてのコーヒーを飲み、眠気も覚めました。



3日目からは電車を使わずに宿から会場までの約5kmを歩いてみました。電車待ちするより早く着き、最終日まで続き、歩いた距離は合計53kmとなりました。しかし、宿の夕食はボリュームがあり、残すのは申し訳ないと思いい、食べきりました。朝ごはんもちゃんと取った結果、5日

間で胃が大きくなり、帰宅後に計測すると、4kgも太ってしまいました。

今回の大会では日本共産党の綱領改定もされ、綱領にはジェンダー平等の社会を目指すことが明記されました。人々を男と女に分けて差別し、女は家事をするのが当たり前とか、男は歯を食いしばって仕事するのが当たり前など生きづらい社会。障がい者だから、高齢者だからと分断しています。誰でも生き生きとできる社会をめざして私も頑張ろうと思います。



全日本年金者組合 網走支部大会 開かれる

全日本年金者組合網走支部大会が1月18日（土）の午後に開かれました。まず、議長を選出し大会が始まりました。初めに、小森一成支部長から挨拶があり、大西一興書記長から活動報告、会計担当から決算報告、会計監査から監査報告があり質疑を行ない、承認されました。



続いて、2020年の活動計画、予算案、新役員を選出して総会は終了しました。その後、懇親会があり持ち寄った料理などを肴にお酒やジュースなどで楽しく懇談をして終了しました。

松浦春蔵メモ



学校給食の民間委託の問題を先週号で記事に書きました。早速、読者の方から「わが家にも学校から保護者への説明会があるとの連絡があった。」「議会で決まっていらないことを保護者に説明するなんておかしい」との怒りの声でした。

この問題は、現在まで議会で全く報告がありません。このやり方は、「議会に提案すれば全て通ることを前提にしている」と受け止められます。議会は、市や教育委員会の下請け機関ではありません。行政をチェックする大きな役割があるのです。まるで決まったかのように、関係者に説明するのは間違いです。まずは議会に計画を示して、市民の声を聞くための一定の時間が必要です。議会での議論が十分なされた上で進めるべきです。それが、議会制民主主義というものではないでしょうか。学校給食は市民全体にかかわる問題です。子ども達には、地産地消で安全・安心な給食を食べてほしい、それが食育というものではないでしょうか。教育委員会においては、性急に事を進めることのないように強く求めたい。

村ちゃん 駆ける



流水まつり実行委員会から今年の市民雪像は中止との連絡があった。

今年は「クレヨンしんちゃん」を作ろうと粘土で模型もつくりあげ、大変だけど市民の喜ぶ姿が見れるから頑張ろうと思っていた。積雪は平年の3割、9cmなので仕方がないが、非常に残念である。

二酸化炭素が増え、地球温暖化が進み、太平洋の島々は毎年のように陸地が波で削られ、住む場所が奪われている。オーストラリアの山火事被害は広がり本州の半分の広さに及んでいる。

日本は太陽光、水力、風力、地熱、バイオマスなど再生可能エネルギーが豊富な国なのだから、政府はエネルギー政策を切り替えるべきだ。一極集中の石炭火力発電を減らし、分散化した再生可能エネルギーの活用で地球温暖化にストップをかけたい。雪像づくりができるよう、世界中から湧き起こる「温暖化を止めよ」の声を、この網走からもあげていきたい。

流水

お正月も後半ですが、お節料理に出るめでたい植物があります。それは慈姑（くわい）です。オモダカ科の多年草。泥中に茎の基部から四方に地中枝を出し、その先に球形で先にくちばし状の芽を持つ淡藍（たんらん）色の塊茎（いも）を生じる。葉は大きく矢じり形。秋、白い花を輪生する。塊茎は、食用。中国原産で水田に栽培される。「デジタル大辞泉」より。▼くわいは、「畑のくり」とも言われ、収穫されるのは11月から2月の寒い時期です。名前の由来は、その独特の風貌からわかるように芽の形が鍬（くわ）に見えるため「鍬芋」と呼ばれていたのがそのうち略されて「くわい」と呼ばれるようになりました。一般的な野菜ではありませんが古くから茎の先に芽が見えることから「芽出たい」という意味で、出世を祈願して正月のお節料理の食材に使われます。▼気になる栄養価ですが、体の余分な水分を出すカリウムや血液を作る元となる葉酸を含んでいます。青グワイ、白グワイ、小粒な吹田（すいた）グワイ（オモダカから取れる）と3種類ほどあります。

博物館友の会会員 小森

